

11月の株式市場展望

(作成者：奥村義弘)

<国内株式>

日経平均株価は、10月2日に2万4,448円と約27年ぶりの高値を付けた。その後、米国の長期金利急上昇を受けた世界的な株価調整を受け反落し、10月29日には終値で2万1,149円の安値をつけた。チャート面では200日移動平均線を割り込み弱気相場入りの様相。ドル高を受けた円安の流れにも反応は鈍い。米国を中心とする海外株式市場の動きに左右される展開だが、11月末に米中首脳会談を控え、貿易摩擦に関するニュースにも敏感である。

相場反転の糸口としては、日本企業の株価水準が予想P E Rからみて割安で、自律反発が狙えることが挙げられる。ただ予想E P Sの伸びは停滞しており、先行きの方向性には注意が必要だ。また景気・株価対策を発表した中国で株式市場に落ち着きが戻ることも期待される。国内景気にも先行きの不透明感が強まっている。このことは経営者の心理にも影響し、好調な設備投資の減少などが懸念される。秋の臨時国会が始まったが、政府は自然災害からの復旧・復興に向けて補正予算案を組み立てる。また19年10月からの消費税の10%への引き上げに向けても、各種の景気対策が期待されよう。リスク回避の動きが収まればリバウンドの余地はあろう。当面、政策期待を軸に、国土強靱化、インバウンド、電子政府、キャッシュレスなど内需関連のテーマに注目する。11月（11月14日から12月10日）の日経平均の予想レンジは2万1,000円～2万3,000円。

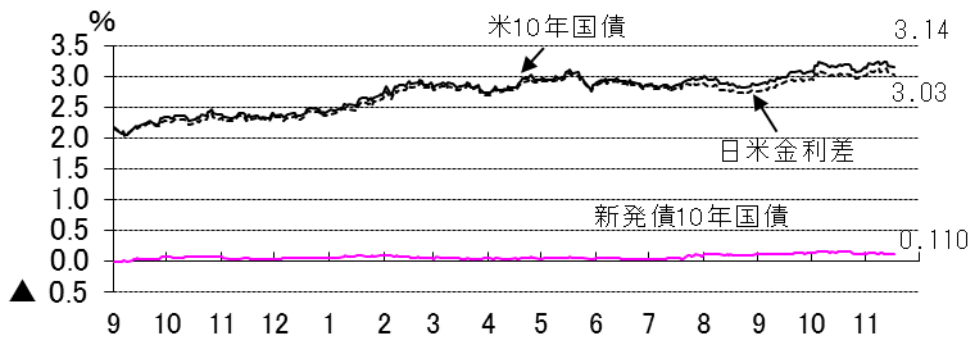
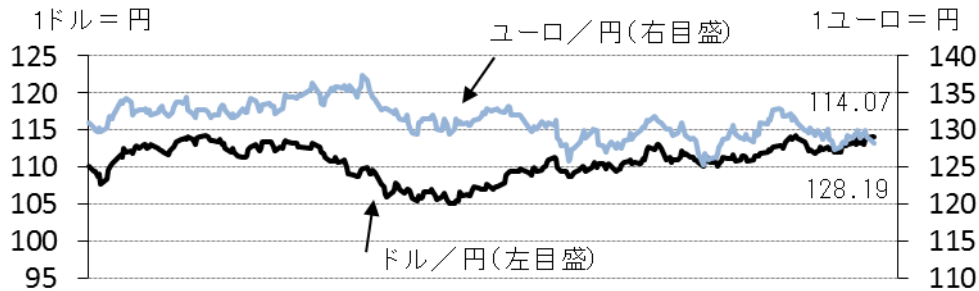
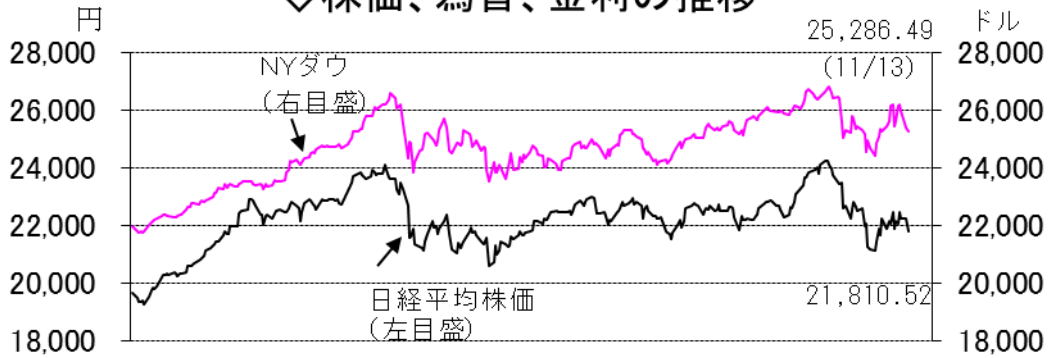
<米国株式>

米国市場では中間選挙を終えイベント通過で安心感が広がった。上院が共和党、下院は民主党が多数を占め「ねじれ」状況が生じたが、ほぼ市場の予想通りの結果でイベントを通過した。ただ11月は月末に米中首脳会談が控えており、結果待ちの様相が強まろう。米金利動向や経済指標を見ながらのもみ合いを予想する。

世界景気は、欧州が英国のEU離脱、イタリアの財政問題、ドイツの政治的安定度の低下などで不安定な情勢である。中国では景気減速懸念が強まっている。その中で米国経済は良さをキープしており、一人勝ちの様相である。金利が緩やかな上昇傾向となり、实体经济への悪影響が懸念されているが、現状はバランスがとれた状況であろう。市場のボラティリティが落ち着けば株価は再び上昇基調に回帰しよう。

ただ11月末に予定の米中首脳会談は要注目である。トランプ大統領が失地回復のため、対外通商交渉で攻勢を強めるとの見方も根強い。物別れとなれば市場は失望しよう。反面、両国が何らかの合意に達すれば好感しよう。対立の激化を避ける妥協成立がメインシナリオだが結果を注視したい。11月（11月14日から12月10日）のNYダウの予想レンジは25,500±800ドル、ハイテク株の多いNASDAQは7,300±400ポイントを予想する。

◇株価、為替、金利の推移



(注) 直近値は11月13日 (出所) CAM作成

お問い合わせ先 ちばぎんアセットマネジメント株式会社 調査部 電話 (代表) 03-5638-1460

金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第443号

加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-13-7

【重要開示事項】

- 本資料は、ちばぎんアセットマネジメント株式会社 (以下「CAM」) 調査部が投資判断の参考となるよう情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料はCAMが信頼できると考える情報源から得た上記日時現在の各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性についてCAMが保証するものではありません。
- 加えて、本資料に記載されたCAMの意見ならびに予測は、予告なしに変更することがあります。
- 投資に関する決定は、お客様ご自身の判断でお願いいたします。